



### 3. ヘルスコミュニケーション学関連学会賞 2023 年度優秀書籍賞選考委員長講評

高山 智子

静岡社会健康医学大学院大学

「ヘルスコミュニケーション学関連学会優秀論文賞」は、ヘルスコミュニケーション学関連学会機構分科会の活性化およびヘルスコミュニケーション学関連領域の研究の発展に貢献することを目的として、2022 年度より創設された。この賞は、過去 2 年以内に発表された国内のヘルスコミュニケーション学関連領域の学術の発展に資する原著論文を対象として、学会誌へ掲載された論文あるいは国際学術誌に掲載された国内のヘルスコミュニケーション学関連領域の学術の発展に寄与する論文に対して贈られる賞である。

2 年目にあたる 2023 年度は、自薦他薦のもとに推薦された全 8 編の原著論文が審査対象となり、予備選考と本審査を経て、健康食品の動画広告に関する RCT 研究を行った家れい奈氏らの論文が受賞した。

The Effect of Exposure to “Exemption” Video Advertisements for Functional Foods: A Randomized Control Study in Japan. *Healthcare*, 10, 345, 2022. 家れい奈、奥原剛、岡田宏子、後藤英子、古川恵美、木内貴弘。

家氏らは、同じく家氏らが行った健康食品の動画広告に関する内容分析の先行研究をもとに、乱れた食事や運動不足を解消するかのように見せかける“免罪符型”の動画広告が、視聴者に及ぼす影響をランダム化比較試験により検討し、対照群と比較して、健康食品を摂取すれば不健康な行動をとることを統計的に有意に認識することを明らかにした。受賞論文はこの後半部分の検討であるが、先行研究から丁寧に検討が行われていることがわかる。

動画による健康関連の情報提供は、今や当たりものとなっているが、動画であることで文章のみあるいは静止画と違って、家氏らが指摘するように、画像によるイメージ、音、顔の表情やトーンなど、非常にインパクトが高く、視聴者に伝わるメッセージと化す。また昨今のアテンションエコノミーの広まりにより、このような動画を用いたエビデンス本来の内容と比較して過剰となる表現やメッセージは、今後もエスカレートしていくことが予想される。今回の受賞論文は、こうした今そして今後さらに大きな社会的な課題となっていくであろう動画広告による影響について検討しているという点で、新規性および社会性がある論文であるとして評価された。また検討の背景となる理論的背景や検討手法として RCT を用いて、丁寧にかつインパクトがある論文として仕上げられていることも、本ヘルスコミュニケーション領域の論文として見本となる、本領域の学術の発展に寄与する論文として、高く評価された点である。

本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構が対象とする領域は、非常に幅広いバックグラウンドをもつ研究者や実践家がいることで、研究手法もさまざまであり、だからこそユニークな学術団体となっている。このたび受賞した家氏らに賛辞を贈るとともに、本論文賞が、幅広い人たちで支えられる会員等から互いに学び合うきっかけの一つとなり、さらなる発展につながることを願っている。